

先生用操作マニュアル

マルチメディア授業支援システム

ライブラリー管理ソフト

品番 WE-AS865A

もくじ

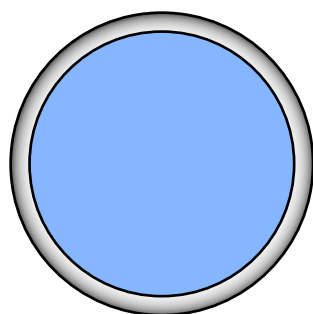
はじめに	3
<管理パソコン編>	
ライブラリー学習を行う	7
<先生パソコン編>	
サーバー教材を確認する	21
付録	36

はじめに

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合のみ使用することができます。本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。また、本書には正確な情報を記載するように努めましたが、誤りや不正確な記述があった場合にも、松下電器産業株式会社 (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.) はいかなる責任、債務も負わないものとします

商標および登録商標について

- L3 Stageは、松下電器産業株式会社の商標です。
- PERSONAL SURROUNDは、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- Adobe®、Adobeロゴ、Acrobat® Reader®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
- Microsoft®、Windows®およびWindowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft® Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。



はじめに

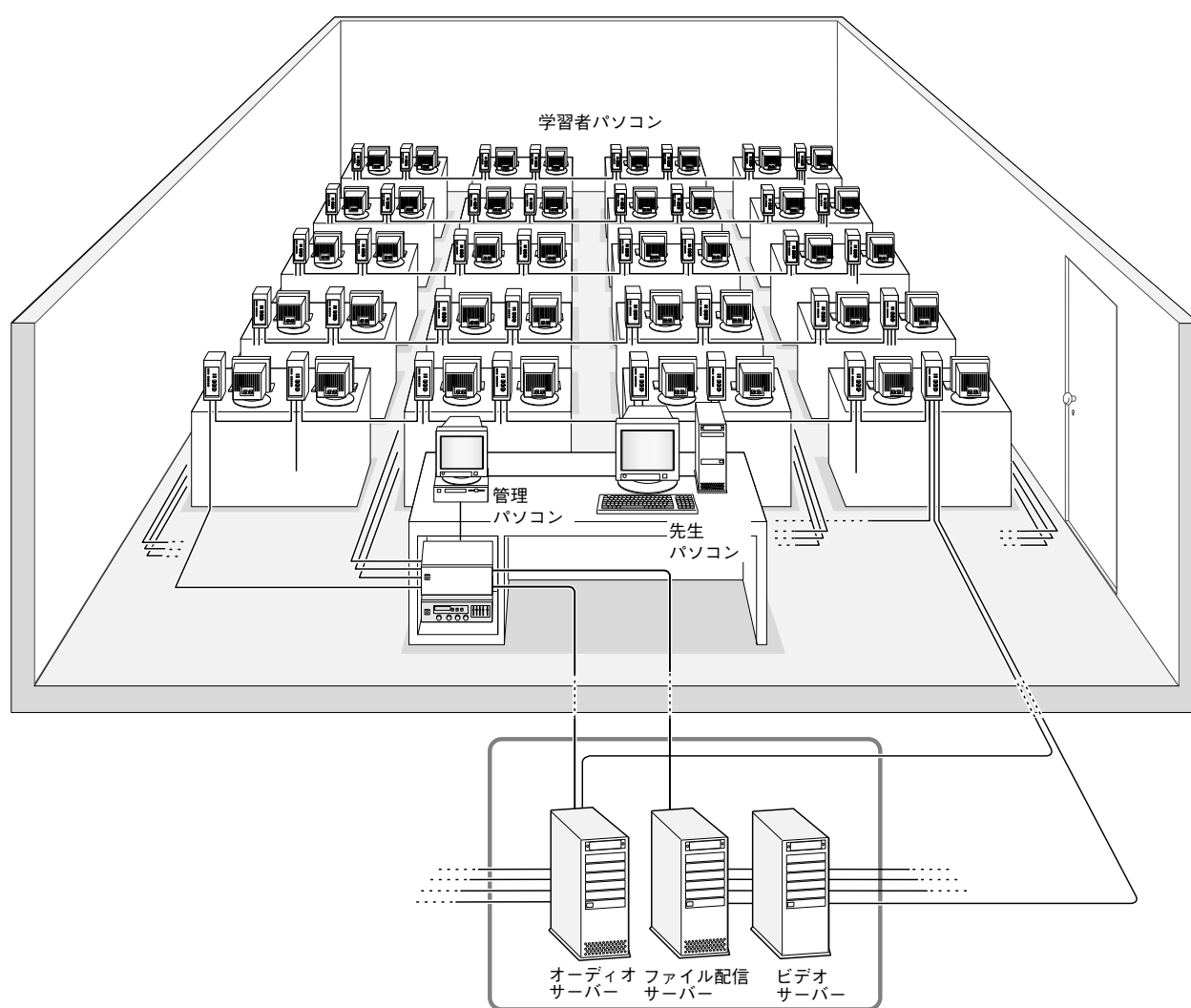
もくじ

商品概要	4
本書について	5
本書で使用している用語について	5
略称について	6

商品概要

ライブラリー管理ソフト（WE-AS865A）は、学内パソコン教室、LAN環境においてパソコンを最大限に活かした語学学習、情報リテラシーの学習をサポートするための授業支援ソフトです。

サーバー教材を指定して学習者に開放することで、学習者ひとりひとりの学習速度や、興味に最適な自習・学習を行わせることができます。



(イメージ図)

本書について

本書は管理パソコン、先生パソコンの操作説明書です。本システムでは授業を行う前に、運用のための設定や各パソコンへのソフトのインストールなど、各種設定が必要になります。

本書で使用している用語について

DHCP接続	: IPアドレスなど、ネットワークを利用するために登録が必要な情報を、自動的に設定するプロトコルを使用してライブラリー学習に接続することです。
PRAC	: STRパネルの機能のひとつで、Practiceの略です。教材に自分の音声を重ねて録音し、比較学習などを行います。
PRL	: STRパネルの機能のひとつでParagraph Repeat Listenの略です。教材の任意の区間を繰り返し再生します。
STRパネル	: Student Tape Recorderの略です。学習者パソコンからこのパネルを使って、音声教材などの操作を行います。
WBT型教材	: 音声に静止画、テキスト、問題設定などを加えたWeb利用の教材です。オンデマンド開放で、Webブラウザを使って閲覧することができます。
Windowsログイン連動	: Windowsへのログインの際に入力されたユーザー名を使用して、授業にログインすることができます。
アナライザー教材	: アナライザー自動進行用の音声教材です。問題の選択肢数、正答番号、回答時間などが設定できます。ライブラリーシステムで使用する場合は、サーバー音声教材と同じ扱いになります。
オーディオサーバー	: 音声教材、アナライザー教材などを登録しておくサーバーです。
学習者パソコン	: 学習者用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。学習者が使用します。
管理パソコン	: ライブラリー管理ソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。先生が使用します。
サーバー音声教材	: オンデマンド開放で使用できる音声教材です。
サーバー教材	: WBT型教材、アナライザー教材、サーバー音声教材の総称です。
先生パソコン	: サーバー教材のプレモニターを行ったり、学習履歴の閲覧を行います。先生が使用します。

- ティーチャーユニット : 先生用の音声入出力ユニットです。ヘッドセットの音量調節などを行います。先生パソコンを使ってプレモニターを行う際に使用します。
- ビデオサーバー : WBT型教材の動画ファイルを登録しておくサーバーです。
- ファイル配信サーバー : 学習者データなどを保存するサーバーです。また、WBT型教材も登録します。
- ライブラリーシステム : サーバーに蓄積してある教材を使用して、学習者が自由に学習（ライブラリー学習）できるシステムです。

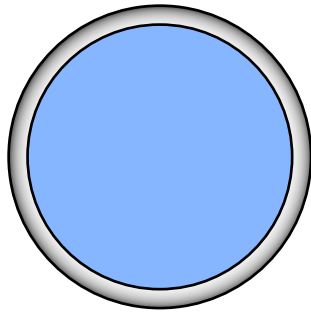
略称について

本書では、米国Microsoft Corporationの各製品を下記のように表記しています。

- Microsoft Windows XP Professional日本語版 : Windows XP
- Microsoft Windows 2000 Professional日本語版 : Windows 2000

また、上記製品に関して共通の説明を記載している箇所では、これらをまとめてWindowsと表記しています。

管理パソコン編



ライブラリー 学習を行う

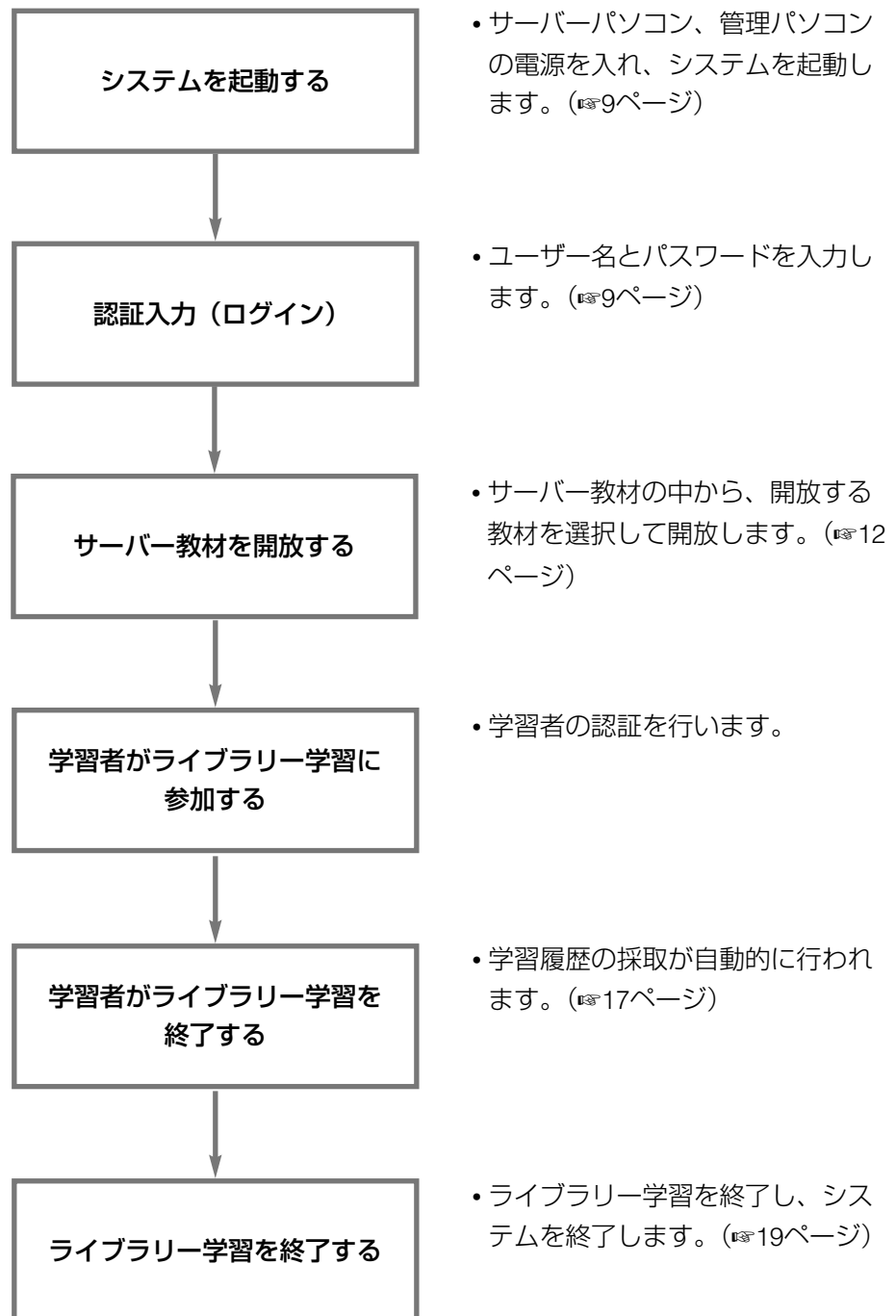
ここでは、ライブラリー学習の開始のしかた～ライブラリー学習に使用する基本的な機能の内容、操作方法について説明します。

もくじ

ライブラリー学習の流れ	8
ライブラリー学習を開始する	9
学習者にサーバー教材を開放する	12
ライブラリー学習を終了する	19

ライブラリー学習の流れ

ライブラリー学習は次の手順で行います。



ライブラリー学習を開始する

次の手順に従って、ライブラリー学習を開始します。

1. システムの電源を入れます。


次の手順に従って、システムの電源を入れます。

①周辺機器（接続しているHUBなど）の電源を入れます。
HUBの電源は、必ずサーバーより先に入れます。

②各種サーバーを起動します。


サーバーの電源を入れて、パスワードを入力し、サーバーを起動します（画面の指示に従って操作します）。

③管理パソコンの電源を入れます。

④Windowsが起動したら、デスクトップ上の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックします。または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」→「L3Stage」→「ライブラリー管理ソフト」を選択します。

→ソフトが起動すると、画面にはユーザー名とパスワードを入力するパネルが表示されます。

2. ログインするユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] ボタンを押します。



ユーザー名を入力してください

ユーザー名
User Name

パスワード
Password

ログイン 電源OFF

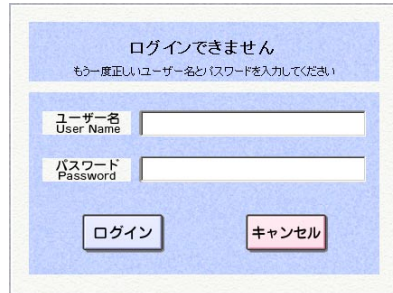
→トップメニュー画面が表示されます。

🔑ユーザー名とパスワードについて🔑

ユーザー名とパスワードはあらかじめ登録が必要です。登録方法など詳細は「別冊ライブラリー管理ソフト取扱説明書」をお読みください。

④ ユーザー名またはパスワードを間違えると

ユーザー名またはパスワードを間違えると、次のパネルが表示され、3回まで再入力できます。正しいユーザー名とパスワードを入力し直してください。



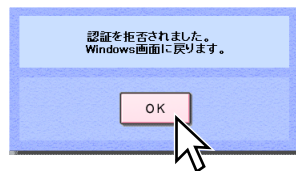
ログインできません
もう一度正しいユーザー名とパスワードを入力してください


ユーザー名
User Name


パスワード
Password

ログイン キャンセル

4回間違えると認証が拒否され、[OK] ボタンを押すとWindows画面に戻ります。

**3. メニューから [ライブラリー] を選択します。**

4. 先生パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [L3Stage] アイコン  をダブルクリックします。または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」→「L3Stage」→「ライブラリー先生ソフト」を選択します。
- 先生ソフトが起動し、画面左下に最小化表示されます。

5. 学習者パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックします。または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」→「L3Stage」→「ライブラリー学習者ソフト」を選択します。
→システム運用管理の設定によって、認証入力パネルまたはライブラリーシステム画面のどちらかが表示されます。
6. タスクバーの [先生ソフト] をクリックし、ライブラリー学習画面を表示します。
7. ランチャーパネルの[レポート]ボタンをクリックし、ファイル配信サーバーの E:\¥database¥submit¥Libraryフォルダー内に、ファイル提出用のフォルダーを作成します（フォルダー名は任意です）。フォルダーが作成されていないと、学習者がファイル提出を行おうとした際に、警告パネルが表示されます。

✂先生パソコンを設置していない場合は✂




管理パソコンでライブラリー管理ソフトを起動する前にエクスプローラを起動します。エクスプローラのアドレスバーに「¥¥192.168.1.22（ファイル配信サーバーのIPアドレス）¥database\$」を入力し、操作手順7を行ってください。



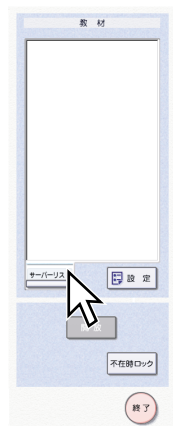
8. ライブラリー学習を開始すると、管理パソコンに以下の画面が表示されます。



学習者にサーバー教材を開放する

学習者にサーバー教材を開放します。開放できる教材は、サーバー音声教材  と、WBT型教材 、アナライザー教材  です。

1. [サーバーリスト] ボタンを押します。



→サーバー教材選択パネルが表示されます。

2. 教材を選択します。



- サーバー音声教材とアナライザー教材は、同じフォルダー内に表示されます。WBT型教材がある場合は、別のフォルダー（名称は同じ）にWBT型教材のみ表示されます。WBT型教材は、レッスンとセンテンスの構造を持ちません。
- フォルダーごと開放したい場合は、フォルダーを押します。レッスンを開放したい場合は、フォルダーの左にある [+] を押し、フォルダー内のレッスンを表示して、開放するレッスンを選択します。

- センテンスを開放したい場合は、レッスンの左にある [+] を押し、レッスン内のセンテンスを表示して、開放するセンテンスを選択します。
- 音声教材、アナライザー教材はフォルダー内にレッスンとセンテンスの構造を持っていますが、WBT型教材は、レッスンとセンテンスの構造を持たないので、フォルダーの下は一階層のみとなります。
- アナライザー教材は、ライブラリー学習で使用する場合、通常の音声教材と同様に学習者による再生のみで、アナライザー機能を使用することはできません。

📁 複数のフォルダー、レッスン、センテンスを開放したいとき 📁

- フォルダーおよび最大10個までのレッスン、センテンスを開放できます。サーバー教材選択パネルで [複数選択] ボタンを押してから、教材を選択します。ただし、フォルダーとレッスンなど、異なる階層の教材は、同時に選択できません。
- サーバー教材選択パネルに表示されているすべての教材を開放したいときは、[全教材] ボタンを押します。

3. サーバー音声教材、アナライザー教材を確認（プレモニター）する場合は、プレモニターのリモコンボタンを操作します（選択した教材にWBT型教材が含まれている場合は、このパネル上でのプレビューはできません。プレビュー画面は先生パソコン側に表示されます）。




カウンター、スライダー


：選択した教材の再生位置をつまみで指定します。複数の教材を選択して再生した場合には、選択した教材の時間の合計がスライダーの長さに対応します。

[REW/SKIP BACK] ボタン


：短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンを離すと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

[STOP] ボタン 

:再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[PLAY] ボタン 

:再生を開始します。

[PAUSE] ボタン 

:再生を一時停止します。

[FF/SKIP FORWARD] ボタン 

:再生中に1秒以上押し続けると早送りが開始され、ボタンをはなすとその位置から再生します。複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

4. WBT型教材を確認（プレビュー）する場合は、[プレビュー] ボタンを押します。



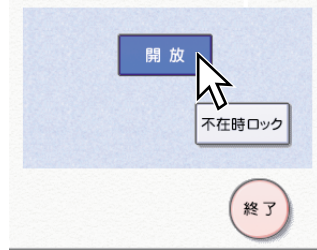
→先生パソコンに、選択した教材が開放されます。先生パソコンを操作して教材をプレビューすることができます（※32ページ）。

5. [OK] ボタンを押します。



→座席レイアウト画面に戻ります。教材表示欄に選択した教材名が表示されます。

6. [開放] ボタンを押します。



→ここで学習者ソフトを起動すると、サーバー教材選択パネルが表示され、自由に教材を選んで学習できる状態になります。

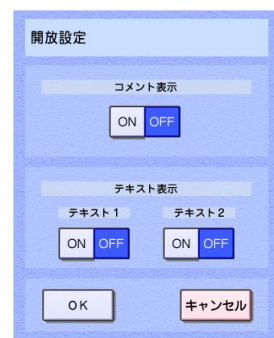
7. 開放を止めるときは、再度 [開放] ボタンを押します。



→学習者への開放が終了します。

✎教材開放に関する設定を変更したいときは✎

開放する教材の添付コメントとテキストを表示する／しないの設定を変更できます。[オンデマンド] タブの [設定] ボタンを押すと、開放設定パネルが表示されます。開放設定の対象は、選択した全ての教材となります。



コメント表示設定

[ON] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させます。

[OFF] ボタン : サーバー音声教材、アナライザー教材に添付されているコメントを学習者パソコンに表示させません。

テキスト表示設定

テキスト1、2は、WBT型教材で表示されるテキストが対象です。

[ON] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させます。

[OFF] ボタン : WBT型教材に添付されているテキストを学習者パソコンに表示させません。

[OK] ボタン : 設定を変更して、開放設定パネルを閉じます。

[キャンセル] ボタン : 設定をキャンセルして、開放設定パネルを閉じます。

DHCP接続した学習者がいる場合

あらかじめ座席表登録してある学習者以外に、DHCP接続によりライブラリー学習に参加している学習者がいると、座席表の下に参加している学習者の情報が表示されます。



途中で教室を離れる時は

教材開放した後、学習者に自習をさせたまま教室を離れる時は、管理パソコンを誤操作されないように、操作をロックしておくことができます。

①画面右下にある、[不在時ロック] ボタンを押します。

→認証入力パネルが表示され、管理パソコンの操作は一切できなくなります。

②不在時ロックを解除するには、不在時ロックを行った先生のユーザー名、パスワードを入力し、[ログイン] ボタンを押します。

学習者の参加と退席

ライブラリー管理パソコンでライブラリー学習を開始すると、学習者は自由にライブラリー学習に参加、退席することができます。

学習者がライブラリー学習に参加すると、座席レイアウト上に学習者名が表示されます。

●学習履歴の採取と削除について

ライブラリー学習した際の情報は、自動的に学習者パソコンからファイル配信サーバーへアップロードさせることができます。

アップロードのタイミングは、以下の2通りです。

- ・ライブラリー管理ソフトでライブラリー学習を終了させたとき
- ・ライブラリー学習者ソフトを終了させたとき

学習履歴の採取を行うか行わないかは、システム運用管理「先生別設定」で行うことができます。詳しくは、システム運用管理（別冊 ライブラリー管理ソフト 取扱説明書）をお読みください。

学習履歴保存対象

- ・サーバー音声教材
- ・WBT型教材

学習履歴に残される内容

- ・ログインユーザー名
- ・学習者氏名
- ・座席番号
- ・使用教材名
- ・学習開始時間
- ・学習終了時間
- ・学習所要時間

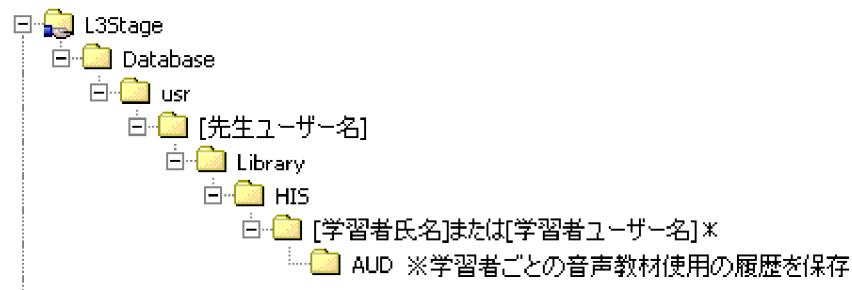
学習履歴はCSV形式のファイルとして保存されるため、Microsoft Excel などを使用して編集したり閲覧したりすることができます。

学習履歴ファイル名は、学習者パソコンで学習履歴ファイルが作成された時のファイル名（[年月日].csvon）を元に、[同一年月日]_01.csvから連番になります。

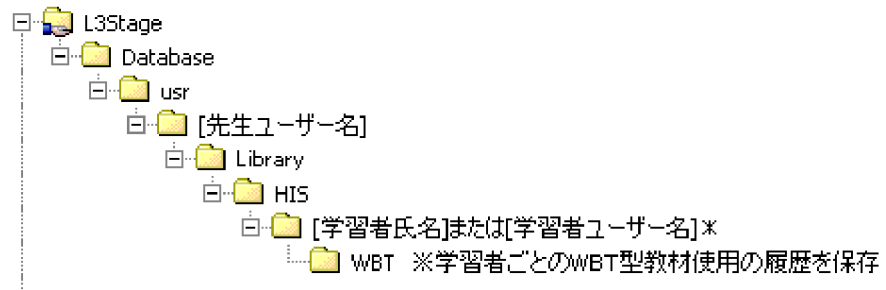
例えば、2003年1月31日に作成された最初の学習履歴ファイル名の場合、
” 20030131_01.csv ” となります。

保存先のフォルダー構成は下図のようになります。

- ・音声教材学習履歴フォルダー



・ WBT型教材学習履歴フォルダー



*印のフォルダーは、学習者名簿に氏名を記載しなかった場合や、Windowsログイン連動が設定されている場合、学習者ユーザー名となります。認証入力がない場合は、学習者端末名となります。

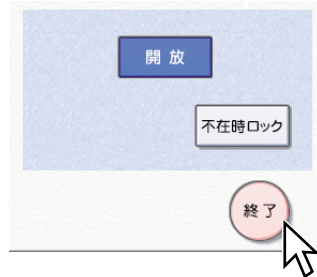
🗑️ 学習履歴を削除するには 🗑️

サーバーに保存されている学習履歴は、システム運用管理で設定されている指定日数に従って保存／削除されます。

保存期間の指定を0日に指定すると、全ての学習履歴を削除することができます。

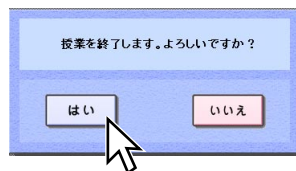
ライブラリー学習を終了する

1. ライブラリー学習コントロール部の [終了] ボタンを押します。



→ライブラリー学習終了の確認パネルが表示されます。

2. [はい] ボタンを押します。

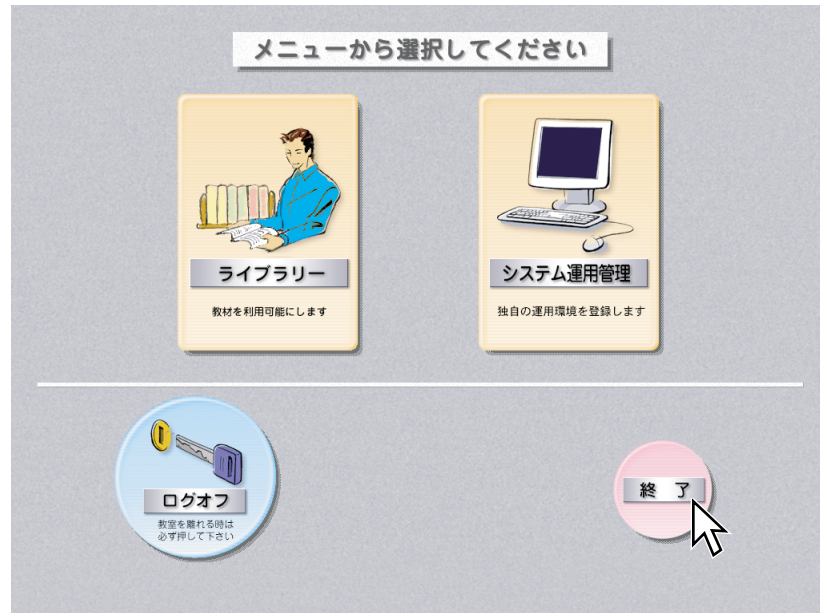


→ライブラリー学習が終了し、トップメニュー画面が表示されます。

このとき学習者パソコンはシステム運用管理の先生別設定によって次の3つのいずれかの動作になります。

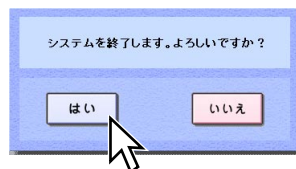
- 認証入力パネルに戻る
- Windows画面に戻る
- 電源OFFする

3. システムを終了する場合は、[終了] ボタンを押します。



→システム終了の確認パネルが表示されます。

4. [はい] ボタンを押します。

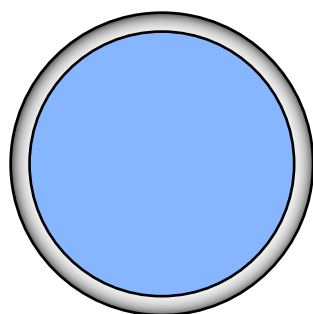


→システムが終了します。

📎システムの終了方法について📎

システムの終了方法は、システム運用管理の先生別設定で、「Windows画面に戻る」(初期値) / 「電源OFFする」のどちらかに設定できます。システム運用管理については「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書」をお読みください。

先生パソコン編



サーバー教材を 確認する


ここでは、起動のしかた、本ソフトの基本的な操作方法について説明します。

もくじ

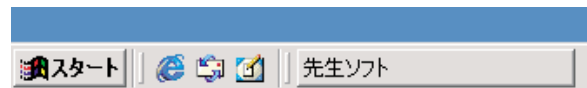
起動する	22
ランチャーパネルの使いかた	23
学習者からの提出物を確認する	23
操作マニュアルを表示する	25
アプリケーションを起動する	26
アプリケーションを一斉に起動する	27
フォルダーボタンの使いかた	29
日本語入力設定ツールバーを表示する	30
先生ソフトを最小化する	31
開放する教材を確認する	32
Windows画面に移る	34
終了する	35

起動する

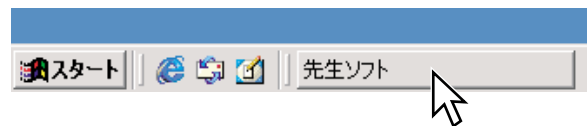
次の手順に従って、システムを起動します。

1. 周辺機器（接続しているHUBなど）の電源を入れます。
HUBの電源は、必ずサーバーより先に入れます。
2. 各種サーバーを起動します。
サーバーの電源を入れて、パスワードを入力し、サーバーを起動します（画面の指示に従って操作します）。
3. 管理パソコンの電源を入れ、ライブラリー管理ソフトを起動します。
4. 先生パソコンの電源を入れ、デスクトップ上の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックします。または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」→「L3Stage」→「ライブラリー先生ソフト」を選択します。

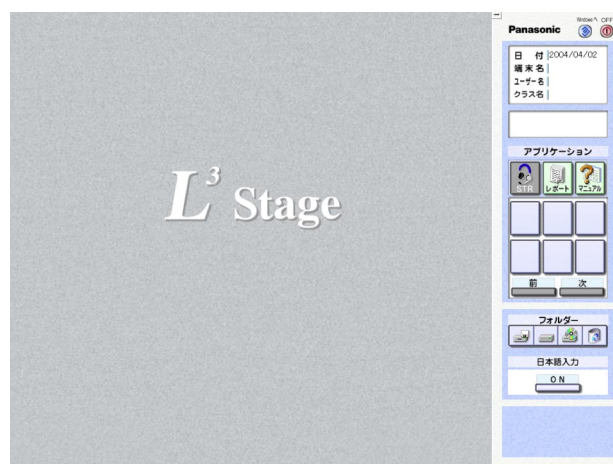
→先生ソフトが起動すると、Windowsのタスクバーに最小化表示されます。



5. タスクバーの [先生ソフト] をクリックします。



→ランチャーパネルが表示され、ライブラリー学習画面になります。



ランチャーパネルの使いかた

ここでは、ランチャーパネルで行う機能の内容とその操作方法について説明します。

学習者からの提出物を確認する

レポートフォルダーには、学習者パソコンから提出されたファイル、PRAC音声、スタンドアローン時の学習履歴が保存されます。

学習者からの提出物をレポートフォルダーに保存するには、学習者が提出ソフトを起動する前に、レポートフォルダーの中に提出物を保存するためのフォルダーを作成しておく必要があります。ライブラリー管理ソフトの起動時に、以下の手順に従って任意のフォルダーを作成してください。

1. アプリケーションの [レポート] ボタンをクリックします。



→レポートフォルダーが表示されます。

提出用フォルダーは、database¥submit¥Libraryフォルダーの下に作成してください（フォルダー名は任意です）。

2. 表示を終了する場合は、Windows のエクスプローラの終了操作を行います。

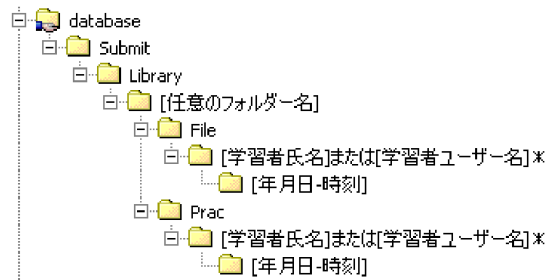
📌 注意 📌

提出先フォルダーは、学習者がファイル提出ソフトを起動する前に作成してください。

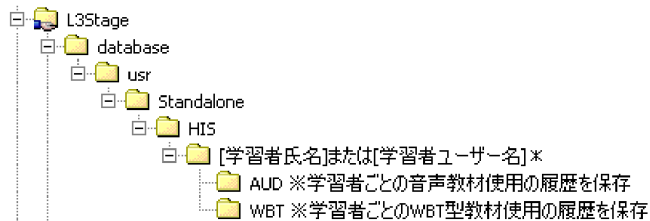
📁 提出フォルダーについて 📁

学習者からの操作で提出に使われるフォルダーは、前ページの操作手順1で作成したフォルダーの下に、ファイルの種類ごとに作成されます。これらのフォルダーは、ファイル配信サーバーの共有ドライブにあります。

- ・ ファイル／PRAC音声提出フォルダー



- ・ 学習履歴提出フォルダー（スタンドアローン学習時の学習履歴）



*印のフォルダーは、学習者名簿に氏名を記載しなかった場合や、Windowsログイン連動が設定されている場合、学習者ユーザー名となります。認証入力がない場合は、学習者端末名となります。

操作マニュアルを表示する

本マニュアルを表示します。

注意

先生パソコンに、Acrobat Readerがインストールされている必要があります。

1. アプリケーションの [マニュアル] ボタンをクリックします。



→Acrobat Readerが起動し、本マニュアルが表示されます。

2. マニュアルを閉じるときは、Acrobat Readerを終了します。

アプリケーションを起動する

Windowsの各種アプリケーションを起動します。

1. 起動したいアプリケーションボタンをクリックします。



→それぞれのアプリケーションが起動します。

2. アプリケーションを終了するとき、それぞれのアプリケーションで終了の操作をします。


📎起動したいアプリケーションのボタンが表示されていないときは📎

[前] ボタンまたは [次] ボタンをクリックし、ページを切り換えます。

アプリケーションを一斉に起動する

学習者パソコンのランチャーに登録されているアプリケーションを一斉に起動することができます。この機能は、学習者パソコンにて学習者ソフトが起動していない状態でも使用することができます。

一斉起動する

1. デスクトップ画面の「一斉起動」アイコン  をダブルクリックします。
または、先生パソコンのランチャーパネルのアプリケーションから「起動」アイコンをクリックします。



→一斉起動ソフトが起動します。

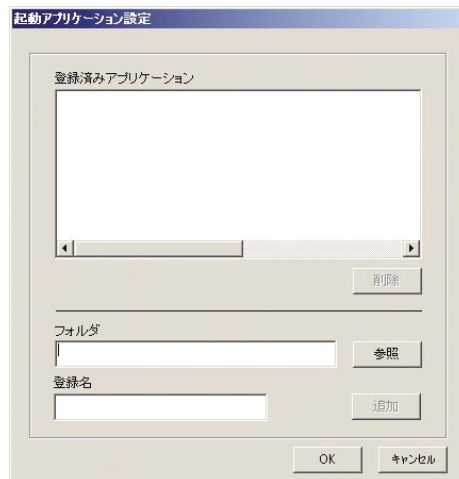
2. 「一斉起動アプリケーション選択」 から起動するアプリケーションを選択します。



3. 「起動」 ボタンをクリックします。
→学習者パソコンで指定したアプリケーションが一斉に起動します。
[オプション (URLなど)] で引数指定をすると、指定したURLの表示などができるようになります。

アプリケーションを登録／削除する

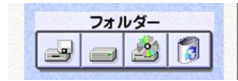
1. アプリケーション一斉起動ソフト画面の [設定] ボタンをクリックします。
→起動アプリケーション設定画面が表示されます。登録済みアプリケーションには、学習者パソコンのランチャーパネルに登録されているアプリケーションが表示されます。




2. [参照] ボタンをクリックして登録したいアプリケーションを選択したあと、アプリケーションの登録名称を入力し、[追加] ボタンをクリックします。
3. 削除する場合、登録済みアプリケーションから削除対象のアプリケーションを選択し、[削除] ボタンをクリックします。
4. [OK] ボタンをクリックします。
→アプリケーション一斉起動ソフト画面に戻ります。


フォルダーボタンの使いかた

次の4つのフォルダーボタンを押すと、フォルダーの内容を表示できます。




[フロッピーディスク] ボタン 


: クリックすると、フロッピーディスクドライブに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れてください。

[ハードディスク] ボタン 

: クリックすると、先生パソコンの作業用に割り当てられているハードディスク内のファイルやフォルダーが表示されます。

[CD-ROM] ボタン 

: クリックすると、CD-ROMに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にCD-ROMドライブにCD-ROMを入れてください。

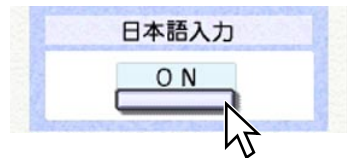
[ごみ箱] ボタン 

: クリックすると、ごみ箱に入っているファイルやフォルダーが表示されます。

日本語入力設定ツールバーを表示する

キーボードの日本語入力の設定を行うMS-IMEツールバーを表示します。

1. MS-IMEツールバーが表示されていないときは [ON] ボタンをクリックします。



→画面右下にMS-IMEツールバーが表示されます。

- Windows2000の場合(例)



- Windows XPの場合(例)



注意

- MS-IMEツールバーはアプリケーションソフトの起動時に自動的に表示される場合もあります。また、MS-IMEツールバーをタスクバーに入れる設定にしている場合は、上記の操作では表示できないことがあります。
- MS-IMEツールバーを移動するには、下図の ○ 部分をマウス左ボタンでドラッグしてください。

- Windows2000の場合(例)



- Windows XPの場合(例)



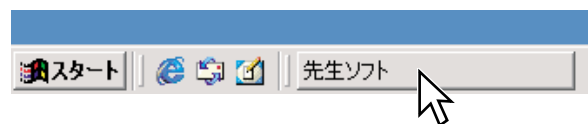
先生ソフトを最小化する

先生ソフトを最小化して表示します。

1. [-] ボタン（最小化ボタン）をクリックします。



→先生ソフトが最小化され、Windows画面に戻ります。再度ライブラリー学習画面を表示するには、タスクバーの「先生ソフト」をクリックします。



⚠注意⚠

先生ソフトを最小化したままで、先生パソコンを終了しないでください。

開放する教材を確認する

管理パソコンのオンデマンド機能を使って学習者に開放する教材を先生パソコンで確認します。STRパネルは、先生パソコンでは教材の事前確認に必要な機能のみ使用できます。

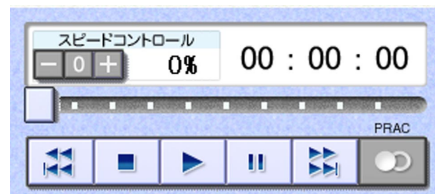
1. 管理パソコンのサーバー教材選択パネルで教材を選択し、[プレビュー] ボタンを押します。

→先生パソコンでSTRパネルとサーバー教材選択パネルが表示されます。

2. 先生パソコンのサーバー教材選択パネルで内容を確認したい教材を選択します。


🔗サーバー音声教材、アナライザー教材の場合🔗

STRパネルのリモコンボタンを操作して、教材を再生します。




[REW/SKIP BACK] ボタン 

: 短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンを離すと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

[STOP] ボタン 

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[PLAY] ボタン 

: 再生を開始します。

[PAUSE] ボタン 

: 再生を一時停止します。


[FF/SKIP FORWARD] ボタン 

: 再生中に1秒以上押し続けると早送りが開始され、ボタンを離すとその位置から再生します。複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

☞WBT型教材の場合☞

教材を選択して、STRパネルの [PLAY] ボタンを押すと、Internet Explorerが起動し、WBT型教材が表示されます。以降の教材の操作は、Internet Explorer上で行います。

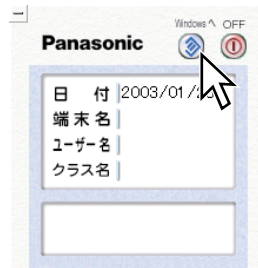
音声が付されている場合は、リモコンボタンで再生できます。

WBT型教材を終了するには、リモコンボタンの右側にある終了ボタン  を押します。

Windows画面に移る



本ソフトを終了し、Windowsのデスクトップ画面に移ります。

1. [Windowsへ] ボタンをクリックします。



→本ソフトを終了し、Windowsの起動画面に移ります。

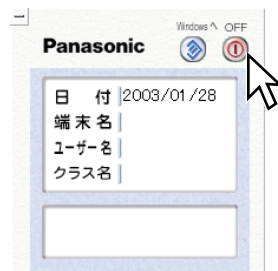
注意

- Windowsの画面から本ソフトを起動するには、デスクトップ上の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックするか、または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」→「L3Stage」→「ライブラリー先生ソフト」を選択します。
- ライブラリー学習運用中にWindowsの機能を使用する場合は、先生ソフトを最小化して使用してください。(先生ソフトを最小化する  31ページ)

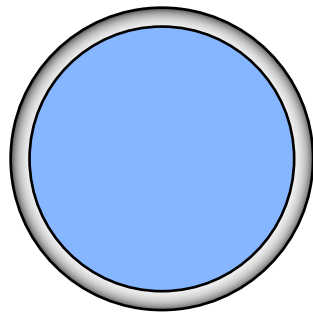
終了する

本ソフトを終了し、先生パソコンの電源をOFFにします。

1. [OFF] ボタンをクリックします。



→本ソフトが終了し、先生パソコンの電源がOFFになります。



付録

もくじ

トラブルシューティング	37
エラーメッセージ一覧	39

トラブルシューティング

ここでは、システム運用中に起こったトラブルの対処方法について説明します。トラブルが起こった場合、「確認していただく内容」欄に記載されている手順に従って対処し、再度操作して確認してみてください。

各機器が接続されているか、各カードが装着されているかなどを確認しなければならないときは、必ず「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書の設置編」をお読みください。

また、対処してもトラブルが解消しないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	確認していただく内容
音声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> • ヘッドセットのプラグが確実に差し込まれているか確認してください。 • ヘッドセットの音量調節つまみ [PHONES] で音量を調節してください。
サーバー教材の音声がヘッドセットから聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> • プレモニターが聞こえない場合は、先生パソコンが起動しているか確認してください。 • オーディオサーバーが正常に起動しているか確認してください。起動していない場合は、管理パソコン、学習者パソコンを終了し電源を一度切ってから、オーディオサーバーを起動してください。 <p>→ 解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
教材再生中に音切れする、ノイズが聞こえる	<p>ヘッドセットのプラグを確実に差し込んでください。</p> <p>→ 解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
パソコンの画面に映像が映らない	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイの電源が入っているか確認してください。 • ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
出席表示にならない学習者アイコンがある	<ul style="list-style-type: none"> • HUBの電源が入っているか確認してください。 • HUBの各ポートに正しくケーブルが接続されているか、確認してください。 • 出席表示にならない学習者のパソコンの後面にLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 <p>→ 解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>

通信エラーが表示される 学習者アイコンがある	<ul style="list-style-type: none">• HUBの電源が入っているか確認してください。• HUBの各ポートに正しくケーブルが接続されているか確認してください。• 通信エラーが表示される学習者のパソコンの後面にLANケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 <p>→解消しない場合は、接続チェックが必要です。「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。</p>
デバイスの取り外しの警告 パネルが表示される	<ul style="list-style-type: none">• デバイス名がL3StageTSユニットと表示されている場合は、スチューデントユニットのUSBケーブルの接続を確認してください。「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書 設置編」をお読みください。
管理パソコンの操作が できない	<ul style="list-style-type: none">• タッチパネルディスプレイの電源を入れてください。• タッチパネルディスプレイとパソコンの接続を確認してください。
タッチパネルディスプレイ の反応が悪い	<ul style="list-style-type: none">• タッチパネルディスプレイのキャリブレーションを調整してください。タッチパネルディスプレイの取扱説明書をお読みください。

エラーメッセージ一覧

メッセージ内容	説明・対処方法など
認証を拒否されました。 Windows 画面に戻ります。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 システムを再起動し、名簿登録されている正しいユーザー名、パスワードを入力してください。
オーディオサーバー／ファイル配信サーバーの接続中に、エラーが発生しました。サーバーの状態、LANの接続を確認してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。 システムを終了し、サーバーが正常に起動されているか、HUBの電源が入っているか、LANケーブルが正しく接続されているかなどを確認してください。 詳しくは、「別冊 ライブラリー管理ソフト取扱説明書」の取扱説明書をお読みください。

松下電器産業株式会社

首都圏本部

〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目15番5号 電話 フリーダイヤル 0120-878-410

© 2004 Matsushita Electric Industrial Co.,Ltd. All Rights Reserved.

3TR865ATPBAA
av0604-1055